

岩手県 グループホームメルシー長橋

自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「ゆっくり いっしょに たのしみながら 一人ひとりのその人らしさを大切に」の運営理念を全職員で確認しあっている。	パートナーとして寄り添う姿勢を忘れず、自己満足にならないよう日々、自分自身に問いかけていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々、確認できるようホーム内のいたるところに掲示している他、毎日の申し送り時、社訓、理念から始まるようにし、確認しあい、共有しあっている。	常に理念を念頭に置き、支援できるようこれからも心がけていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ホーム内に、社訓や運営理念を掲示してある。パンフレットや、毎月発行している広報にも必ず運営理念を入れている。ご家族にも、契約時、必ず話し理解いただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的に散歩に出かけ、近所の人たちと挨拶を交わしている。また、犬の散歩道でもあり、声をかけ犬に興味のある利用者さんと話すきっかけ作りをしている。隣接する施設さんの行事に参加させていただいている。	地域の方に施設のことを知っていただくために、近所のコンビニ、薬局、ショッピングモールなどに広報を置いていただいている。その他、広範囲に働きかけ、広報を回覧していただいている。いろいろな方に協力いただいている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内の行事に参加したり交流しあっている。近隣とは、回覧板の回付や散歩時の挨拶、産直などに買い物に行ったりする等して交流を図っている。	地域の方のボランティアも定期的に受け入れ交流している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の機会を通じて情報交換している。広報の掲載記事に感染予防や健康ライブラリーの枠を設けている。		運営推進会議にて地域高齢者の情報を集め役立つことがないか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	高い意識を持ち続けるための良い刺激と受け止めている。第三者からの助言・気づきをいただくことで、質の向上につとめていきたい。前回意見のあった献立表に関してもすぐ改善を行った。		気づきがあった際は、すぐ改善できるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。利用者・行事状況報告地域高齢者等の意見交換また、地域についての情報を得ており交流等のきっかけとなっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からない事などはその都度担当者に聞いている。出来る限り、提出書類は直接もっていき、顔なじみになれるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の方で、成年後見制度を利用中の方がいる。権利擁護、成年後見制度のパンフレットを置き、職員にも周知するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加で学ぶ機会を得ている。職員全員で気をつけている。		職員全員で、お互いが注意し合える環境づくりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明遺書、同意書を示しながら丁寧に説明している。その後も家族からの質問などを受付けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月ごとの家族への報告、様子のお知らせの手紙の中に、ホームへの意見、質問、不満等ありましたらお知らせくださいとの一文を入れている。又、面会者がいらした際は、居室で過ごしていただき利用者の方が思っていることなどを話しやすくしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状態変化時はそのつど連絡を入れている。毎月の様子を各担当者が、ご家族さんへ写真つきで便りを出している。職員の異動があった際は、毎月の家族便りにてお知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情などについては面会時や運営推進会議の参加の際を利用し意見を得るようにしている。	意見・要望等を大事にし、その都度話し合い適切な対応につとめて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ハード面での不都合は、その都度運営者に話を通して。ほか、月1回の職員会議で聞くようにしている。レクリエーションなどは、職員のアイデアで日々行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設長がフリーであるため、急な勤務変更にも対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を固定化し、なじみの関係を継続することを基本としており、離職を抑える努力はしている。変わる場合はダメージを最小限に止める体制作りをしている。	職員が定着し、なじみの関係を築けるよう人選して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は立てていないが、研修案内がきたときは、経験などを考慮し参加させている。その他の定例会などは順番に出席できるようにしている。毎月の職員の係りで、勉強係がありテーマにそって月1回みんなで勉強をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック定例会や、県の定例会に参加し勉強・交流をはかっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人の希望を取り入れたシフト作りをするよう努力している。職員の小さな変化も見逃さないように注意し、意見や相談など言いやすい環境づくりをしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己の向上心、啓発の取り組みに、添えるよう環境を整える用意はある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族や、サービス利用時は事業所職員にも話を聞くなどして、事前調査をに対応している。必ず利用者さんとも面接している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の事前調査時、ご家族さんとも面接し、抱えている不安や求めていること等を聞いている。利用開始日にもホームの生活で求めていること等を聞き、計画作成に盛り込むようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は必要としていることは何なのかを見極め、確実に答える努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を通じてホームの雰囲気を知ってもらい、利用者の状況等も合わせて観察している。利用開始後も出来るだけ在宅で使用していたものを持参していただくようお願いするなど、早く慣れていただくための工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で、生活の知恵や話などを聞き教えられたりしている。ゆっくり、いっしょにをモットーに出来ないことを支えている。		人生の先輩として、尊敬する心を忘れず接していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をし家族の協力を得られることで改善できることはお願いしている。入所されたことで精神面・身体的にも安心されたことを分かち合い、次はホームでの暮らしを安心して過ごしていただくため、職員・家族とで前向きに進めていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係は、その家庭により様々であるが、ご本人、家族とも良い関係でいられるよう情報提供等を続けていく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時、ご家族と連絡を取りながら支援している。面会者の方には、ご本人との関係もお聞きしながら、忘れていたような時には、職員が間を取り持つようにしている。また、共通のお友達にも声をかけていただければと、一言添えている。	○	ご家族の協力を得ながら、なじみの場所に行き行って見る個別支援も取り入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士でトラブルが発生している時は、危険がないよう職員が介入している。利用者さん同士で助け合ったり、慰めあったりしている光景を目にする事もある。顔なじみの関係もでき、自然に支えあっているように見受けられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅に退所となった方には、担当のケアマネジャーに情報を聞いたりしている。		普段から、ご家族様とも良い付き合いができるよう努力している。退所となっても、良い付き合いを続けていければと思う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない日常会話の中から、ご本人の意向、希望などを聞き取る努力をしている。困難な場合はご家族へ情報などを聞いている。言動や、行動を観察することで、何かの訴えではないかと職員みんなで考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、ご家族やご本人からの協力を得て、利用者記録を作成。生活歴や職歴、趣味や性格など、利用開始に至るまでの情報を詳しく聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	いつも同じ状態ではない利用者一人ひとりの特徴をつかんで、体調管理、食事摂取量、睡眠時間、排泄、1日に過ごし方、心身の状態に関して毎日、個別の記録に記入。申し送りで情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に個別のカンファレンスをしている。		カンファレンス計画やご家族参加のサービス担当者会議の年間計画表を来年度はつくり実行していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、常に利用者さんの状態に合わせて変化する物である、変化に応じて常に見直しを行っている。3ヶ月、6ヶ月ごとに又、心身の状況の変化に気づいた時点で見直ししている。申し送りノートに状態変化の記録をその都度行い随時の見直しに役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う、どうしたのかな、と思うことを見逃すことなく、本人が用いた言葉や、表情などそのままをチャートに記入している。各、出番の職員への申し送りを正確に確実にやっている。		個別に、日中、夜間の様子、その中での気づきなどを記録に記入。情報を共有しながら、計画の美馬押しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や、ドライブ、通院、外食、美容院等への外出支援など、本人、家族の希望に合わせ可能な限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に、お茶、踊り、コーラスのボランティアさんに来ていただいている。隣接するしいのみホームさんとの交流もお誘いがありできている。管轄の消防署指導のもと、火災訓練も行っている。管轄の警察署には利用者さん全員のSOSネットワーク登録も完了している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までにはない。	○	今後、本人の意向、必要性があれば対応し支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までにはない。	○	今後、本人の意向、必要性があれば対応し連携をとっていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人・家族の意向があれば利用前からのかかりつけ医に継続的に診ていただいている。その他の方は、協力医に定期的に受診している。協力医が月1回往診に来てくださり、利用者全員を診てくださっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医からの紹介状の下、認知症専門医を受診している。職員の相談にも快くのってくださり、利用者さんが安定して暮らせるように定期的に受診し診ていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との契約により、週1回2時間の訪問で、利用者の健康管理、健康面での相談などを行っている。また、昼夜問わず連絡できる体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院への入院であれば、同系列の訪問看護と契約しているため、情報交換、相談など早期退院に向けての対応はできている。	○	協力医療機関以外での連携については、ご家族さんとも話しあい検討していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期まで至っていない。	○	重度化・終末期に備え、マニュアルを職員みんなが周知し、ご本人・家族様の希望に沿うよう話し合いをし、寄り良い方向性を見つけ支援できるような体制作りをしていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「一人ひとりのその人らしさを大切に」を方針として希望された状態で暮らせるよう連携支援を構築中である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や他機関との連携により、ダメージ防止に努めている。居室内になじみのものを持ち込んだり、家具の配置に帰を配るなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え、排泄、入浴、夜間等のプライバシーには気配りをしている。言葉かけにも注意をはらって対応している。個人情報・記録物も同様に気配りしている。	外部用の広報「めるちゃん便り」と、ご家族様向けの「家族便り」と2種類発行している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に応じた言葉かけを行い、思いや希望に対してはそのつど対応している。自らすすんで食事作りや、食器拭きなどに関わってもらっている。自分の仕事であると、自主的に動かされる方も居られる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分によって波があるのは当然である。一人ひとりのその日の気分を尊重し、対応している。最低ラインをご家族ときめ、それがクリアされれば良しとする柔軟さで、その人ペースで暮らしていただいている。食事に関しても、その方のペースにあわせ、急がせない支援をしている。	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば、その方の状態などを見てご家族と話し合い対応している。昔ながらの美容院に協力していただき、定期的に美容院へ行っている。着替えの準備に関しても、一緒に衣類を選ぶようにしている。衣類の買い物があるときは一緒に行き選んでいただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、おしぼりたたみなど、また食事後の片付けにいたるまでの流れの中で、利用者全員が少しずつでもお手伝いしていただけるよう支援している。職員も同じ物を食べ、食卓を共にし、話題にしたりしている。行事や、季節の物にあわせたメニュー作りをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ティータイム時、おやつ時など本人の好みを聞き、飲み物を提供している。現在、お酒、たばこをたしなむ方はいない。誕生会の時には、本人のリクエストを聞き対応している。果物に関しても本人と一緒に買い物に行きえらんでいただいている。	タバコや、お酒に関しては主治医、ご家族とも相談しながら対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、24時間のチェック表に基づき声がけで対応している。日中はできるだけ布パンツで過ごしていただくようにしている。夜間に関しても安眠重視しながら、個別に排泄パターンを見て、少ない回数での声がけで失禁なく過ごしていただけるよう職員みんなで取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実地。個人でゆっくり入浴できるよう、せかさないうケアをしている。入っても、入っていないという方には、否定せず再入浴をしたり、時間などを検討しながら、希望・タイミングをみて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、昼間は散歩などで体を動かしたり、室内のレク活動などで、体を動かし、笑ったりすることで夜間良眠につながるようアイデアを出し合っている。昼食後はゆっくりすごしていただいている。自由に休息をとられたりして過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さんの生活歴を大切に、能力に即した役割をもつていただき、笑いあるレクリエーションや、個別の楽しみごとなどの支援をしている。外食や買い物などで、外へでること気晴らしできればと思っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されている方はいない。買い物などで、現金を持たせレジで支払う事で、お金に対する支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出ている。週2回の買い物など外出支援はしている。	○	一人ひとりの希望にそって、戸外にでられるよう、体制作りと、ご家族の協力体制を進めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクにも行って楽しめるものなどを考えて場所を決めている。個別に行って見たいところで、行けるのであれば柔軟に対応している。家族さんと出かけられる方もいる。	○	家族さんの協力もなければ対応できないところもあるため、ご家族様と相談しながら支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があったさいは受け入れている。手紙も自由である。年賀はがきや、残暑見舞いなど、希望者は書いている。遠方にいる、お孫さんと手紙の交換を続けられる方も居られる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や、知人の面会は自由に来ていただいている。居室や、ホールなど自由に場所を選んでいただき、お茶を飲みながらゆっくりしていただいている。宿泊も、利用者さんと同室になるが、いつでも泊まっていただけるよう布団などは準備してある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。身体拘束は行っていない。	○	管理者が身体拘束廃止推進委員研修に参加。研修終了後、さらに、身体拘束しないケアに取り組む予定。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関は7時～20時まで開いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は随時所在の確認。夜間は定時の巡視をしている。職員全員他者に任せることなく、責任をもちおこなっている。ベランダや玄関近くなどは特に注意をはらい安全に過ごしていただけるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や、はさみ、果物ナイフ、ツメきりなどの数の確認。貸し出し物品の回収の徹底など、職員同士声をかけあい確認している。潜在・漂白剤などは目の届きにくいところに保管し、管理している。バケツもふたつきの物を使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット事故報告書の報告に止めず、職員全員が閲覧し確認し、全員の心のゆるみを引き締め直し業務にあたっている。夜間帯定時の巡視を行い、急変、事故防止、早期発見に努めている。		職員全員、管轄の消防署にて救命救急の講習をうけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は出来ていない。急変や事故発生時は連携できる体制を作っている。警察にSOSネットワークの登録はしている。	○	連携している訪問看護の指導の下、訓練を定期的にできるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管轄の消防署に依頼して、助言・指導のもと、職員全員火事における避難訓練を実施。近隣施設の方も参加され協力を得ている。	○	推進会議などで地域の方にも協力の依頼などしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活での変化や、必要と思われる事項、急変を要する事項などは電話連絡を行い、それ以外は面会時や、月1度の手紙などで近況報告している。危険なことなどは話をし、必ずご家族と共有するようにしている。		個々の状態に応じ起こり得るリスクを回避できるよう家族に相談し、良い対応策を一緒にさがしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定、食事量、排泄状態のチェック、全身の視診、行動や顔色などに気を配り、異常あれば職員全員で周知し、早めに受診している。入浴時の全身の視診も怠らないようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で声をかけながら行い、誤薬や、飲み忘れがないよう一人ひとりの服薬確認をしている。通院後は通院記録を書き、薬の変更あれば副作用など注意事項も書くようにしている。症状の変化あれば訪問看護に連絡し、医師との連携で指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、管理・観察を行っている。医療機関や訪問看護にそうだんのうえ個別対応している。水分量、食事量の確保。適度な運動を心がけている。便通を浴するためにも考え、糸こんにゃくいりごはんも、継続している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・夜間の義歯のつけ置きにて衛生保持に心がけている。うまくは磨き出来ない方に支援している。	○	協力歯科医院に協力していただき、口腔ケア・ブラッシング指導をしていただく予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録。水分に関しては決められた時間以外にも自由に飲んでいただけるようポットを置いている。暑い日や入浴後はポカリスエットで対応し水分不足にならないよう注意している。栄養バランスに関しては協力病院の栄養士の指導にて献立表作成をしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルがあり、マニュアルに沿って掃除をしている。外出後はうがい・手洗いの徹底。職員も出勤したら、うがい・手洗いを徹底している。外出時のマスクの着用も行っている。ワクチン接種はご家族同意のもと行う。食事前はアルコールで手指消毒実施。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、賞味期限を守り新鮮なうちに調理することを心がけている。調理器具は毎日夜につけ置き消毒。布巾、お絞りは使用後消毒液に漬け込み、専用の洗濯機にて洗っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事務所に面しているため、職員の対応が迅速に行える。チャイムを設置し、照明もあり、明るさも確保されている。スロープほか、手すりも設置しており安心して出入りできている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床や廊下、浴室、トイレ等には障害となる物は置かないようにしている。ホーム内の壁には、レク活動の様子や作品などをはり、食堂には共同作業でつくった季節のはり絵を飾っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい時には照らすに長いすを出し、ひなたぼっこをされたり、食堂以外でも玄関前の長いすですごしたり、畳に横になり、昼寝される方、本を読む方、景色を眺められる方、思い思いに過ごされている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りで使い慣れたものを持参してもらっている。物が見えることで安心できるようクローゼット部分にあえて扉をつけず、オープンにしている。「物が無い」「盗まれた」という方には、自分の衣類や家具でうめつけし、そのことで安心できたという、個別支援も行った。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気をしている。温湿度計にて調節している。乾燥時期には加湿器使用。掃除時には窓を開け、空気の入替えをしている。不快な匂いが立ち込めた時にはかまめに窓あけをおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室内・脱衣場・玄関へ手すりの設置をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのペースに合わせた声がけをしている。ホーム内の開き戸に場所の名前をつけている。居室にも00さんのお部屋と表示し、目線の高さに表示している。居室の分からなくなる方には、目印をするなど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は玄関前のスペースで足湯や、外の手すりを使い流しそうめんベランダでは行事に合わせて食事やひなたぼっこ、スペースに活用。駐車場では、バーベキューや、花火、芋煮会をおこなった。外回りの草取りもみんなで行った。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)